

強制水泳試験における大麻成分 THC の不動時間延長作用に関する研究： カンナビノイド CB₁ 受容体の関与

千鳥 正三¹⁾ 江頭 伸昭²⁾ 松田 智美²⁾
合志 英美²⁾ 永井 宏¹⁾ 松下 満彦¹⁾
内田 直樹¹⁾ 三島 健一²⁾ 岩崎 克典²⁾
藤原 道弘²⁾ 西村 良二¹⁾

¹⁾ 福岡大学医学部精神医学教室

²⁾ 福岡大学薬学部臨床疾患薬理学教室

要約: Delta⁹-tetrahydrocannabinol (THC) は大麻中の主要な化合物のひとつであり、その作用機序について数多くの研究が報告されている。今回、我々は THC を投与したマウスに対して抗うつ薬のスクリーニングに用いられる強制水泳試験 (FST) を行い、不動時間に対する THC の作用について検討を行った。THC 投与30分後に FST, Rota-rod test, および open-field test を行い、不動時間に及ぼす影響と運動機能に及ぼす影響を測定した。THC (0.3mg/kg i.p.) は、運動機能を低下させることなく FST による不動時間を延長した。そして、それらの不動時間延長は CB₁ 受容体アンタゴニストである SR141716 (3mg/kg) によって短縮した。これらのことより、THC による FST の不動時間延長作用には CB₁ 受容体が重要な役割を果たしていることが考えられた。

キーワード: 強制水泳試験, Δ⁹-tetrahydrocannabinol, CB₁ receptor, SR141716